「教養小説」と呼ばれるジャンルがある。ドイツのBildungsromanの翻訳である。ゲーテの『ヴィルヘルム・マイスターの修行時代』などが代表とされ、人間の成長、とくに内面形成の歴史を描いた小説などを言う。しかし、「教養小説」というのは、「教養」が「教育」とほぼ同義で使われていた明治から大正時代の用語法であり、ばくは「成長小説」とか「教育小説」と言っただけないのがよいのではないかと勝手に思っている。

当然ながら、教育に関する題材、受験や受験すらできない差別についての現実についての叙述も、これは洋の東西を問わず多い。ヨーロッパでは、ヘッセの『車輪の下に』などがあるし、スタンダールの『赤と黒』もショットの『長距離ランナーの孤独』もそうした読み方ができる。

戦前日本の少年期・青年期を描いた児童小説である山本有三『路傍の石』、下村湖人の『次郎物語』などには旧制の中学校進学をめぐる受験の影響が刻印されている。また、中野孝次『変形する目に』は、旧制高校や大学への受験の様相をリアルに描いていた。

しかし、その頃の受験進学への参加はまだ国民の一部であり、ほとんどすべての人々を巻き込んで過熱するのは第二次世界大戦後のことである。学歴が人生において大きな要素となるという「学歴社会」という言葉が生まれたのにも古くない。

そして、この受験進学の激しさは、日本、中国、韓国で著しく、東アジアに共通する、世界で際立った現象である。中国では、受験進学の季節には北京などに受験生が集中するためにホテル全体が受験一色になるという経験をした。韓国の高校では、6時間の通常授業以外に、0時限、7、8時限の授業を行っている学校も珍しくない。数年前には政府が塾の規制をもじろうということもあった。

どうして東アジアで受験進学が過熱するのか。これには、儒教文化の影響を拡張する説、近代の後発生原因を求める説もあるが、ばくは定見を持たない。

いずれにせよ、「主体的な学び」「高大接続」が叫ばれる中で、どのような学力を育てるのかが問われている。

（文学部教育学科 教授）
2016年度 東洋研究所共同研究課題

<table>
<thead>
<tr>
<th>第1編</th>
<th>東洋における異文化の本質的相違性に関する研究</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>期間</td>
<td>2016～2018年度（研究期間中）</td>
</tr>
<tr>
<td>メンバー</td>
<td>田山田準【主任】 岡崎邦彦，小林春樹，田中良明 ベトナム語，日本語，英語，中国語</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>第2編</th>
<th>20世紀・21世紀における日中関係と中国の对外抵抗・対内改革・世界大同</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>期間</td>
<td>2015～2017年度（継続）</td>
</tr>
<tr>
<td>メンバー</td>
<td>田山田準【主任】 岡崎邦彦，小林春樹，田中良明 ベトナム語，日本語，英語，中国語</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>第3編</th>
<th>諸外国における東西文化研究</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>期間</td>
<td>2014～2016年度（研究期間中）</td>
</tr>
<tr>
<td>メンバー</td>
<td>田山田準【主任】 ア・クリシュナ・W・シュパング ベトナム語，日本語，英語，中国語</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>第4編</th>
<th>日中文学の比較文学的研究—『文芸類聚』を中心にして—</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>期間</td>
<td>2014～2016年度（研究期間中）</td>
</tr>
<tr>
<td>メンバー</td>
<td>田山田準【主任】 田中良明 ベトナム語，日本語，英語，中国語</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>第5編</th>
<th>西欧殖民主義再考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>期間</td>
<td>2014～2016年度（研究期間中）</td>
</tr>
<tr>
<td>メンバー</td>
<td>田山田準【主任】 ベトナメ語，日本語，英語，中国語</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>第6編</th>
<th>唐・李鳳儀『天文要略』の研究【訳注作業を中心にして】</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>期間</td>
<td>2016～2018年度（研究期間中）</td>
</tr>
<tr>
<td>メンバー</td>
<td>田山田準【主任】 小林春樹，田中良明 ベトナメ語，日本語，英語，中国語</td>
</tr>
</tbody>
</table>

概要 今日の複雑な社会情勢を眺める人は、多様な価値観の存在を相互に理解することの重要性を痛感するであろう。地球という有限な空間の中で、多くの生命が共存する社会の在り方を模索しなければならない。本共同研究は、こうした「共生社会」の構築を視野に、東洋における異文化及び東西文化に見られる相違性を抽出することを目指している。異文化の根底にある相違性が理解されれば、相互理解の途を開くであろう。21世紀における新しい社会の創造を求めて先駆的な研究を進めていく。
第7号

概要 2004（平成16）年度～2006（平成18）年度日本医師会医科大学研究費補助金・基盤研究（C）（2）「茶の湯と座の文芸の本質的な研究―茶道を有する知的体系の確立と人間のネットワークの形成」の成果。および2008～2011年度の東京研究

第8号

概要 イラン文化圏における50年の社会・文化変容−フィールドから歴史へ−

第9号

概要 岡倉天心（覚三）にとっての「伝統と近代」

第10号

概要 南アジアにおける社会変動と文化変容−周邊からのアプローチ−
### 2015年度 東洋研究所共同研究班活動報告

#### 第1班
<table>
<thead>
<tr>
<th>No.</th>
<th>研究テーマ（発表・演題等）</th>
<th>開催日時</th>
<th>開催場所</th>
<th>参加者</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>各自の研究テーマに従って、「東洋研究」原稿の準備。</td>
<td></td>
<td></td>
<td>メール 11名</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>「東洋研究」に投稿 195号田中寛、岡崎邦彦／199号小林春樹、福田俊昭、田中良明</td>
<td></td>
<td></td>
<td>5名</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>山田講による公開講座</td>
<td>11月19日</td>
<td>東大文化会館</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

【注意（同行物等）】

#### 第2班
<table>
<thead>
<tr>
<th>No.</th>
<th>研究テーマ（発表・演題等）</th>
<th>開催日時</th>
<th>開催場所</th>
<th>参加者</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>近藤邦雄「1989年5月20日 山崎直男・寺沢厚対談について」</td>
<td>5月9日</td>
<td>東大文化会館</td>
<td>15名</td>
</tr>
</tbody>
</table>
| 2   | ①田中寛「日本語の「南進」とその背景：帝国日本の言語政策をめぐって」
②岡崎邦彦「西洋史と周辺史—周辺国の東北工作」 | 7月18日 | 東大文化会館 | 15名 |
| 3   | ①伊藤一彦「中国の「抗日戦争歴史70周年」をめぐり」
②松本和久（オプサーバー：早稲田大学）「初期中国淵源地域の発生と展開」 | 10月17日 | 東大文化会館 | 20名 |
| 4   | ①上野英明「「一帯一路」構想の由来と課題—海外談話から」
②野崎健児「中日邦交正常化と中国の近況」 | 10月24日 | 東大文化会館 | 21名 |
| 5   | ①岡崎邦彦「西洋史と中国共産党——革命の真相と歴史的考察」
②小島貞明「近現代中国史の最近」 | 3月19日 | 東大文化会館 | 21名 |

【注意（同行物等）】田中寛著「戦時期における日本語・日本語教育の諸相」ひつじ書房 2015年6月
鷲沼茂著「持田真の「国際的解決」戦略：1937-1941 東方書店 2016年2月
岡崎邦彦著「西洋史と中国共産党」東洋研究所 2016年2月

#### 第3班
<table>
<thead>
<tr>
<th>No.</th>
<th>研究テーマ（発表・演題等）</th>
<th>開催日時</th>
<th>開催場所</th>
<th>参加者</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>ジュール先生論文執筆の打ち合わせ 196号「東洋研究」執筆</td>
<td></td>
<td></td>
<td>メール</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>ジュール先生「高野長英」についての研究交換</td>
<td>10月</td>
<td>山田研究室</td>
<td>2名</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【注意（同行物等）】

#### 第4班
<table>
<thead>
<tr>
<th>No.</th>
<th>研究テーマ（発表・演題等）</th>
<th>開催日時</th>
<th>開催場所</th>
<th>参加者</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>「東文報告」巻89編成</td>
<td>4月18日</td>
<td>東洋研共同研究室</td>
<td>8名</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>「東文報告」巻89編成</td>
<td>5月23日</td>
<td>東洋研共同研究室</td>
<td>7名</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>「東文報告」巻89編成</td>
<td>6月20日</td>
<td>東洋研共同研究室</td>
<td>9名</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>「東文報告」巻89編成</td>
<td>7月25日</td>
<td>東洋研共同研究室</td>
<td>8名</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>「東文報告」巻89編成</td>
<td>8月29日</td>
<td>学術研究スペース</td>
<td>7名</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>「東文報告」巻89編成</td>
<td>9月26日</td>
<td>東洋研共同研究室</td>
<td>9名</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【注意（同行物等）】「東文報告」巻89（六）編成（2015年12月25日発行）

#### 第5班
<table>
<thead>
<tr>
<th>No.</th>
<th>研究テーマ（発表・演題等）</th>
<th>開催日時</th>
<th>開催場所</th>
<th>参加者</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>淀口先生出版報告会</td>
<td>4月</td>
<td>山田研究室</td>
<td>4名</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>淀口先生快楽原稿報告</td>
<td>5月</td>
<td>山田研究室</td>
<td>2名</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>淀口先生快楽原稿読誦</td>
<td>6月</td>
<td>メール</td>
<td>3名</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>生田先生による公開講座</td>
<td>11月12日</td>
<td>東大文化会館</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>山田講による公開講座</td>
<td>11月19日</td>
<td>東大文化会館</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>淀口先生快楽原稿読誦</td>
<td>9月</td>
<td>メール</td>
<td>3名</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【注意（同行物等）】佐藤俊輔著「インディアンの成立とポルトガル人の定住」（2015年3月23日発行）
### 第6班

<table>
<thead>
<tr>
<th>No.</th>
<th>研究テーマ（発表・演題等）</th>
<th>開催日時</th>
<th>開催場所</th>
<th>研究者</th>
<th>No.</th>
<th>研究テーマ（発表・演題等）</th>
<th>開催日時</th>
<th>開催場所</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>「天文要録」卷4講座録（1）</td>
<td>4月11日</td>
<td>東洋研究研究室</td>
<td>5名</td>
<td>6</td>
<td>「天文要録」卷4講座録（2）</td>
<td>10月31日</td>
<td>東洋研究研究室</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>「天文要録」卷4講座録（2）</td>
<td>5月10日</td>
<td>東洋研究研究室</td>
<td>4名</td>
<td>7</td>
<td>「天文要録」卷4講座録（3）</td>
<td>11月21日</td>
<td>東洋研究研究室</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>「天文要録」卷4講座録（3）</td>
<td>6月13日</td>
<td>東洋研究研究室</td>
<td>8名</td>
<td>8</td>
<td>「天文要録」卷4講座録（4）</td>
<td>12月12日</td>
<td>東洋研究研究室</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>「天文要録」卷4講座録（4）</td>
<td>7月18日</td>
<td>東洋研究研究室</td>
<td>6名</td>
<td>9</td>
<td>「天文要録」卷4講座録（5）</td>
<td>1月1日</td>
<td>東洋研究研究室</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>「天文要録」卷4講座録（5）</td>
<td>9月19日</td>
<td>東洋研究研究室</td>
<td>4名</td>
<td>10</td>
<td>「天文要録」卷4講座録（6）</td>
<td>2月13日</td>
<td>東洋研究研究室</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【備考（床行等）】小林春生編集『「天文要録」の考察（2）』(2016年2月25日発行)

### 第7班

<table>
<thead>
<tr>
<th>No.</th>
<th>研究テーマ（発表・演題等）</th>
<th>開催日時</th>
<th>開催場所</th>
<th>研究者</th>
<th>No.</th>
<th>研究テーマ（発表・演題等）</th>
<th>開催日時</th>
<th>開催場所</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>茶道聞行作法見習講座附属</td>
<td>4月</td>
<td>毎週火曜</td>
<td>大和文化大学1-0508教室</td>
<td>16名</td>
<td>8</td>
<td>客人入席含む見習</td>
<td>6月25日</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>闘争跡話之行事期別</td>
<td>9月</td>
<td>毎週木曜</td>
<td>大和文化大学1-0508教室</td>
<td>9月</td>
<td>客人と相手書類に成る</td>
<td>8/11</td>
<td>油坊短期大学</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>客人と相手書類に成る</td>
<td>10月</td>
<td>毎週木曜</td>
<td>大和文化大学1-0508教室</td>
<td>10月</td>
<td>夏目誌磨言の出所望の物</td>
<td>10月</td>
<td>大和文化大学1-0508教室</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>客人手水之行事期別</td>
<td>5月</td>
<td>毎週水曜</td>
<td>大和文化大学1-0508教室</td>
<td>11月</td>
<td>客人と相手書類に成る</td>
<td>11月</td>
<td>大和文化大学1-0508教室</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>客人と相手書類に成る</td>
<td>5/5, 5/6</td>
<td>阪神・ソラマチ大学</td>
<td>12名</td>
<td>客人と相手書類に成る</td>
<td>12月</td>
<td>大和文化大学1-0508教室</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

【備考（床行等）】「茶道」第3巻第2期(2016年9月3日発行)

### 第8班

<table>
<thead>
<tr>
<th>No.</th>
<th>研究テーマ（発表・演題等）</th>
<th>開催日時</th>
<th>開催場所</th>
<th>研究者</th>
<th>No.</th>
<th>研究テーマ（発表・演題等）</th>
<th>開催日時</th>
<th>開催場所</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>結婚影響下におけるアフガニスタン農村社会の発展</td>
<td>5月24日</td>
<td>大東文化大学</td>
<td>8名</td>
<td>2</td>
<td>結婚影響下におけるアフガニスタン農村社会の発展</td>
<td>7月25日</td>
<td>大東文化大学</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>結婚影響下におけるアフガニスタン農村社会の発展</td>
<td>7月25日</td>
<td>大東文化大学</td>
<td>15名</td>
<td>3</td>
<td>結婚影響下におけるアフガニスタン農村社会の発展</td>
<td>11月22日</td>
<td>大東文化大学</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>結婚影響下におけるアフガニスタン農村社会の発展</td>
<td>11月22日</td>
<td>大東文化大学</td>
<td>12名</td>
<td>4</td>
<td>結婚影響下におけるアフガニスタン農村社会の発展</td>
<td>1月24日</td>
<td>大東文化大学</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【備考（床行等）】「東洋研究」掲載 (189号 : 林 箐 (190号 : 野武正通) 東洋研究所国際交流講演会 (2016/2/20 アブドーウ・ケイワン)

### 第9班

<table>
<thead>
<tr>
<th>No.</th>
<th>研究テーマ（発表・演題等）</th>
<th>開催日時</th>
<th>開催場所</th>
<th>研究者</th>
<th>No.</th>
<th>研究テーマ（発表・演題等）</th>
<th>開催日時</th>
<th>開催場所</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>島倉天心をめぐる近世の研究会（岡倉天心研究会『縄の会』との共催）</td>
<td>7月26日</td>
<td>大東文化大学</td>
<td>9名</td>
<td>2</td>
<td>島倉天心をめぐる近世の研究会（岡倉天心研究会『縄の会』との共催）</td>
<td>8月26日</td>
<td>大東文化大学</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【備考（床行等）】

### 第10班

<table>
<thead>
<tr>
<th>No.</th>
<th>研究テーマ（発表・演題等）</th>
<th>開催日時</th>
<th>開催場所</th>
<th>研究者</th>
<th>No.</th>
<th>研究テーマ（発表・演題等）</th>
<th>開催日時</th>
<th>開催場所</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>片岡弘司「バキスタンの文学について」</td>
<td>5月11日</td>
<td>東亜山辺学園 3階会議室</td>
<td>8名</td>
<td>2</td>
<td>片岡弘司「バキスタンの文学について」</td>
<td>7月23日</td>
<td>東亜山辺学園 3階会議室</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>片岡弘司「バキスタンの文学について」</td>
<td>9月29日</td>
<td>東亜山辺学園 3階会議室</td>
<td>8名</td>
<td>4</td>
<td>片岡弘司「バキスタンの文学について」</td>
<td>11月14日</td>
<td>東亜山辺学園 3階会議室</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【備考（床行等）】「社会変化と文化変容：周辺からのアプローチ」(植田、井上、鈴田編 (2017年度刊行予定)
テロ、内戦や政情不安で苦悩する中東では、イランは政治的に安定しているように見える数少ない国の一つである。しかも最近、長く対立事項となっていた核開発問題においてアメリカを初め主要国との間に合意に達し、国際的な孤立も終焉しつつある。しかし今後、イランは国際社会と歩調を合わせ中東地域の安定化に力を貸すかどうか大きな課題である。なぜなら言うと、大衆革命によって誕生したイラン・イスラーム共和国という政治体制は国内において社会の「イスラーム化」を、そして地域において米国を中心とする地域の秩序に取って代わるオルタナティブな秩序体制の形成を目指しており、「フツワ」を体制ではないからである。

イスラーム共和国という政治体制が1980年代後半に定着した時期から、早くも体制の「フツワ化」を目指した勢力は政治エリートの中から出現した。しかし彼らに対してこの体制のイデオロギー的特徴を重視する保守勢力は立ちはで、本質的な変化を阻止しようとした。イランは今後進む方向が、現在も進行中である「変化を求める勢力」（変革派）と「現状維持を求める勢力」（旧派）の間の勢力均衡と闘争の結果で決まると言える。いずれの勢力も聖職者、軍（革命防衛隊）幹部、官僚、大企業家や大手メディア経営者等からなる支配層の一部の支持を得ているが、支配層だけをみれば旧派に対する支持の方が強い。しかし逆に国際社会も国内の市民社会も本格的な変化に対する応援が圧倒的に多い。

歴史的にみれば、イランにおける変革の運動は「改革派」という政治勢力が1977年に大統領選に勝ったことに端を発し、その後も変革を巡る闘争は一進一退しながら続いてきた。

ハタミ大統領（1997年～2005年）時代の前半では政治改革が進み対外関係も改善したが、この変化は定着する前に2001年頃から旧勢力は巻き返しを図り、とくにアフガニスタン大統領（2005年～2013年）は「革命の原点への回帰」の名の元で保守的な政策を強行した。そこにはアフガニスタン戦争やイラク戦争等地域の不安定化や原油価格の高騰も大きく影響した。

2013年に誕生した「変革派」のルハーニー政権は、ハタミー一元大統領と比べて、政治改革よりも経済の安定化や対外関係の改善を目指し、実際に核問題の解決という大きな成果を挙げることができた。しかしルハーニー大統領と彼を支持する勢力が他の分野における変化の実現にも同様に成功できるかどうかは不透明である。現在の勢力均衡をみて、まだ「本格的な変化」に反対する旧勢力側はかなり優位な立場に立っている。彼らは議会、軍、司法、大手メディア等を支配し、最高指導者の支持も得られている。これに対して、「変革派」のルハーニー政権は国民による支持が厚く、主要国など国際社会の応援も受けている。

ルハーニー政権は今後、経済改革と対外関係の改善に力を入れることに間違いがないが、真剣に政治改革に取り込むことが難しい。上の勢力均衡圏は大きく転換しない限り、ルハーニー政権下の本格的な変化（＝イランのフツワ化）はかなり限定されるものになるだろうと言える。
兼任研究員に委嘱

【新任】江崎隆哉、王 宝平、星山幸子、吉田雄介
アブド・ケイコン、小尾 淳（6名）
（期間：2016年4月1日～2020年3月31日）

兼任研究員（35名）

相田 滿（国文学研究資料館准教授）
芦川 敏彦（浜松学芸中・高等学校非常勤教諭）
錢屋 一（日大文学外国学部教授）
安保 博史（群馬県立女子大学教授）
池田 久代（皇學館大学教授）
伊藤 一彦（中国研究所理事）
上野 英訓（防衛研究所 元・図書館長）
植松 希久磨（大東文化大学非常勤講師）
岡倉 登志（大東文化大学名誉教授）
岡本 佳子（国際基督教大学准教授）
片岡 弘次（大東文化大学名誉教授）
小坂 真二（昭陽堂研究者）
小林 龍彦（前橋工科大学教授）
斎藤 正道（東京外国語大学非常勤講師）
佐藤 志乃（立教大学兼任講師）
増築 亜弓子（元・日本大使館報道官兼専門速記）
菱尾 眞江（大東文化大学非常勤講師）
関 清孝（埼玉県立伊奈学園総合高等学校教諭）
高木 ゆみ子（パリ・東アジア文明研究センター研究員）
中村 愉（玉川大学教授）
中村 士（帝京平成大学 元・教授）
中村 榎徳（大東文化大学非常勤講師）
南里 浩子（東京帝國大学非常勤講師）
林 裕（関西学院大学人間福祉学部助教）
福田 俊昭（大東文化大学名誉教授）
細井 快志（活水女子大学教授）
三田 明弘（日本女子大学人間社会学部文化学科教授）
矢ヶ崎善太郎（京都工芸繊維大学准教授）
山下 克明（国際日本文化研究センター合同研修員）
山川 樫（ベネフル総合研究所企画部マネージャー）
依田 樹（大宮弘之美術館学芸員）
渡邊 義浩（早稲田大学教授）
F.R. ジラール（フランス東京学院教授）
M.C. ミリオーレ（イタリア国立コレッジ大学教授）
C. ラフィーヌ（ブリティッシュ・コーパリア大学准教授）

特別兼任研究員（7名）

生田 滋（大東文化大学名誉教授）
小島 麗選（大東文化大学名誉教授）
近藤 邦雄（東京大学名誉教授）
邁藤 彌幸（無窮会／東洋文化研究所名誉所長）
中島 宏（中国研究所研究員）
成田 守（大東文化大学名誉教授）
濱 久雄（無窮会専門名誉図書館長）

事務室（2名）

事務長 横山 美智子
杉島 康索
東洋研究所の理念・目的

東洋研究所の起源は1921年の貴・衆画院による「漢学振興二関スル建議案」の決定に由来する。この背景にある基本的理念は、①漢学を中心とする東洋学術の研究、②東西文化的融合による新しい文化的創造をめざすことであった。

この理念実現の推進母体として1923年大東文化会館が創設され、研究機関として、①漢学を中心とする東洋学術の研究部門として東洋研究所を、②東西文化の融合による新しい文化的創造をめざす比較研究部門を設け、教育機関として大東文化学院を設立した。

この二つの研究部門は1953年学校法人大東文化大学付属大東文化学院に継承され、1961年学校法人大阪文化学院の振興計画の一環として、新たに「東洋研究所」として過去の①・②の理念を継承している。

東洋研究所の目的は、学術第6条に基づく大東文化学院東洋研究所規定によって定められ、「アジアを中心とする人文・社会・自然の科学的調査研究を行い、広く学術的発展に寄与すること」とされている。

当初、研究部第一部人文学科と第二部社会科学科の2組織がおかれて、その後専任研究員の就任に伴い人文科学部、政治・経済学、国際関係学の3部門に分かれての研究活動に入った。

時代の要請に選ばれ個人研究はもとより、学際的・総合的共同研究の重要性を強調し、学際的メンバーによる研究部会を設け、研究成果を学術雑誌『東洋研究』に掲載するとともに、刊行物を発行し世に成果を問うている。また、研究成果を地域社会への還元として公開講座を開催し、国際交流の一環として、外国人講師による講演会等学術の発展に寄与することを目的に活動している。

(2014年7月)

2015年度東洋研究所会議報告

■管理委員会
①日時：2015年5月6日（木）10:40～
場所：東洋研究所共同研究室

【議案】
1. 故兵頭教授研究室の図書資料の取り扱いについて
2. 東洋研究所予算に関する事項について
3. 2015年度東洋研究所公開講座の実施について
4. 2015年度東洋研究所出版計画について
5. 2015年度東洋研究所の事業計画に関する事項について
6. 2015年度東洋研究所の共同研究計画について
7.「東洋研究」第200号について
8.「東洋研究刊行物の発行および配付内規（改定案）」について

②日時：2015年11月4日（水）10:30～
場所：東洋研究所共同研究室

【議案】
1.「東洋研究」並びに刊行物の選択状況について
2. 村井先生研究室分置図書返還並びに研究書点検について
3. 2016年度共同研究計画書（案）について
4. 2016年度東洋研究所出版計画について
5. 2016年度予算計画について
6. 東洋研究所研究員（兼任研究員）の人事について
7. 東洋研究所の理念・目的の見直しについて
8. 東洋研究所内部規程について
9. 2015・2016年度公開講座の実施について
10. 2015年度研究所活動報告会、国際交流（講演会）の実施について
11. 2015（平成27）年度私立大学等常勤費補助金特別補助に係る調査について

③日時：2016年2月20日（土）12:00～
場所：大東文化会館 K—0302研修室

【議案】
1. 東洋研究所刊行物の発行状況について
2. 研究活動報告会および国際交流講演会について
3. 認証評価草案について
4. 松方家資料について
5. 管理委員会委員の承認と補充について
6. 2016年度会議日程について
7. 東洋研究所兼任研究員の許諾状況について
8.「東洋研究」投稿規則について
9.「東洋研究刊行物の発行および配付内規（改定案）」について
10. 図書資料のデータ化について

■所内会議（於：東洋研究所共同研究室）
2015年4月16日（木） 2015年4月23日（木）
2015年5月21日（木） 2015年6月18日（木）
2015年7月23日（木） 2015年9月17日（木）
2015年10月15日（木） 2015年11月19日（木）
2015年12月3日（木） 2016年1月14日（木）
2016年2月18日（木） 2016年3月17日（木）

所内ディスカッション（於：東洋研究所共同研究室）
2015年6月11日（木） 2015年7月12日（木）
2015年7月16日（木） 2016年1月14日（木）
新刊案内

『藝文類聚』（巻 89）訓読付索引
大東文化大学東洋研究所「藝文類聚」研究班 代表 中林史朗
2016年2月25日発行／B5判 82,37頁／ISBN978-4-904626-22-1／価格￥4,000（税別）

『藝文類聚』は中国の類書の中でも早い成立に属する類書で、日本文学への影響は計り知れないものがある。本書はその「藝文類聚」を巻ごとに訓読を施し、四部類書に採録されている作品については校異を付し、最後に利用者の便を考えて重要語彙索引を掲載したものである。巻89は、「木部下」の楊柳、梅、椒、柾、桂、柳、篤、無患、朱藤、君子、検、椌、栄蔵等を収録している。

『茶譜』巻8 注釀 茶中しの編撰
相田潤安、保博史、フレドリック・ジラール、佐藤信一、高木ゆみ子、三田明弘、矢崎善太郎共著
2016年3月21日発行／B5 卷 272頁／ISBN978-4-904626-25-2／価格￥12,000（税別）

『茶譜』全18巻は、茶道流派の生成を考証している寛文九年（1661～1673）頃の成立とされ、茶道全般における総合的な類書編纂書である。各項目について、千利休流・小堀遠州流・古田織部流・金森宗和流等、流派のちがいを対照的に提示しつつ、茶の湯や茶室にかかわるさまざまな記事を類聚編纂した茶道百科事典ともいうべき性格を備えている。
（既刊）巻1～巻7

『天文要録』の考察 [二] 小林春樹編集代表
2016年2月25日発行／B5判 97,2頁／ISBN978-4-904626-23-8／価格￥4,000（税別）

初唐唐高宗の臘德元年（664）に、李鳳によって撰述された天文占書である『天文要録』は、つとに中国では散逸し日本で僅経籍文獻に、計26巻が伝わる仮存書である。
本書は、その第二冊（巻四）「日占」の撰書を翻訳したうえで、訓読文、現代語訳、語釈・参考文献、余論を施したものである。

『西安事変と中国共産党－西安事変80周年』岡崎邦彦著
2016年2月25日発行／A5判 317頁／ISBN978-4-904626-21-4／価格￥3,000（税別）

本年（2016年）12月、中国では西安事変80周年を迎える。著者は、2006年から10年間の西安事変研究を経て「西安事変と中国共産党－西安事変80周年」を上梓した。
これまでに遺存した史料を基に、事変の真相を明らかにすることが出来た。という観点から、事変の真相が浮かびたことを確認していた。
詳細は本書にてご覧あれ。

『インディア領の成立とポルトガル人の定住—ポルトガルのアジア進出史の再検討』齊藤俊輔著
2016年3月23日発行／A5判 244頁／ISBN978-4-904626-20-7／価格￥3,000（税別）

従来、ポルトガルのアジア進出史は、交易をめぐる争いの歴史として考えられることが多くなかった。本書はそれらを異なり、ポルトガル人そのものに焦點が当てられることとなる。中心となるのは、彼らがどのようにアジアにやって来て、そして定住したかという問題である。
本書では、ポルトガル人の定住が基本的にはインディア領を通じた現象でありながら、ディアスポリックな性質を持ったことが明らかにされる。

『岡倉天心―明治国家形成期における「日本美術」』大東文化大学東洋研究所・岡倉天心研究班（正式名称：岡倉天心研究会の「伝統と近代」代表 田邊 清
2016年3月11日発行／B5判 77頁／ISBN978-4-904626-24-5／価格￥5,000（税別）

本書は2012年4月に発足した「天心研究班」の研究成果を発表する二冊目のものである。天心を含む大岡倉登志大東文化大学名誉教授の論考を筆頭に6名の研究者が独自の専門性を生かしながら、天心研究の新たな考察の方向を模索している。今後の天心の多彩な才能をも明治期の日本美術を中心に分析しているが本書で生じた課題を新たな視点から次の段階で展開していくことも既に検討している。

この他の東洋研究所刊行物についてはホームページをご覧ください。

刊行物取扱店
■池上書店（大東文化大学板橋校舎内）
〒175-8571 板橋区高島平1-9-1
Tel. (03) 3932-7567

■進明堂（大東文化大学東松山校舎内）
〒355-8501 東松山市岩倉560
Tel. (0493) 34-4430

■汲古書院
〒102-0072 千代田区飯田橋2-5-4
Tel. (03) 3265-9764
### 2016年度 東洋研究所 公開講座のお知らせ 「アジアの民族と文化」

主催：大東文化大学 東洋研究所

<table>
<thead>
<tr>
<th>日程・テーマ・講師</th>
<th>講義概要</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>11月10日（木）13:00～15:00 現代イランの詩を読む ～20世紀の文学的潮流と言語芸術の試み～ 東洋研究所 兼任研究員 大東文化大学 非常勤講師 中村 菜穂</td>
<td>ベルシア文学といえば、日本ではオマール・ハイヤームの『ルバイヤート』やフェルドゥスィーの『王書』が親しまれています。また『千夜一夜物語』と思い浮かべられる方も多いかもしれません。そうした文学的伝統のあるイランで、現在はどんな詩が読まれ、あるいは読まれているのでしょうか。深い悲哀を読んだ詩から、愛の詩、人生への思考や軽快なユーモアの表れた詩まで。この回では、20世紀イランに現れたいくつかの新しい詩の潮流を概観しつつ、激動の社会を生きる人々の心の内面に迫ってみたいと思います。</td>
</tr>
<tr>
<td>11月17日（木）13:00～15:00 タゴール・天心の思想から見る「アジアの民族と文化」 東洋研究所 兼任研究員 大東文化大学 名誉教授 岡倉 登志</td>
<td>アジアを初のノーベル賞受賞者タゴールは、インド亜大陸のインドとバングラデシュの国歌作詞者である。ベンガル・ルネッサンスとタゴール・天心の関係をみてみたい。 民族と文化的問題は、現代のアフリカの紛争にも関係しており、自衛隊が出動するので、演者の専門であるアフリカの問題とも比較したい。</td>
</tr>
</tbody>
</table>
| 11月24日（木）13:00～15:00 西安事変80周年、その真相を語る 東洋研究所 専任研究員 大東文化大学 准教授 岡崎 邦彦 | 2016年12月、中国は西安事変80周年を迎える。私は2006年から10年間の「西安事変」研究を経て、本年2月、「西安事変と中国共産党—西安事変80周年—」を大東文化大学東洋研究所より上梓した（取材店：東京書店、池上書店など）。 事変後80年目にして、間に満されていた事変の真相を、ようやく明らかにすることができた。いったい誰が、事変の真相が暴かれることを邪魔していたのか。当時は、その真相に迫っていく。

■受講料：1回 500円（各回当日支払）
■定員：50名（先着順）
■受付期間：11月4日（金）まで（消印有効）

 legends: 2016年度 東洋研究所 公開講座のお知らせ 「アジアの民族と文化」

主催：大東文化大学 東洋研究所

<table>
<thead>
<tr>
<th>日程・テーマ・講師</th>
<th>講義概要</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>11月10日（木）13:00～15:00 現代イランの詩を読む ～20世紀の文学的潮流と言語芸術の試み～ 東洋研究所 兼任研究員 大東文化大学 非常勤講師 中村 菜穂</td>
<td>ベルシア文学といえば、日本ではオマール・ハイヤームの『ルバイヤート』やフェルドゥスィーの『王書』が親しまれています。また『千夜一夜物語』と思い浮かべられる方も多いかもしれません。そうした文学的伝統のあるイランで、現在はどんな詩が読まれ、あるいは読まれているのでしょうか。深い悲哀を読んだ詩から、愛の詩、人生への思考や軽快なユーモアの表れた詩まで。この回では、20世紀イランに現れたいくつかの新しい詩の潮流を概観しつつ、激動の社会を生きる人々の心の内面に迫ってみたいと思います。</td>
</tr>
<tr>
<td>11月17日（木）13:00～15:00 タゴール・天心の思想から見る「アジアの民族と文化」 東洋研究所 兼任研究員 大東文化大学 名誉教授 岡倉 登志</td>
<td>アジアを初のノーベル賞受賞者タゴールは、インド亜大陸のインドとバングラデシュの国歌作詞者である。ベンガル・ルネッサンスとタゴール・天心の関係をみてみたい。 民族と文化的問題は、現代のアフリカの紛争にも関係しており、自衛隊が出動するので、演者の専門であるアフリカの問題とも比較したい。</td>
</tr>
</tbody>
</table>
| 11月24日（木）13:00～15:00 西安事変80周年、その真相を語る 東洋研究所 専任研究員 大東文化大学 准教授 岡崎 邦彦 | 2016年12月、中国は西安事変80周年を迎える。私は2006年から10年間の「西安事変」研究を経て、本年2月、「西安事変と中国共産党—西安事変80周年—」を大東文化大学東洋研究所より上梓した（取材店：東京書店、池上書店など）。 事変後80年目にして、間に満されていた事変の真相を、ようやく明らかにすることができた。いったい誰が、事変の真相が暴かれることを邪魔していたのか。当時は、その真相に迫っていく。

■受講料：1回 500円（各回当日支払）
■定員：50名（先着順）
■受付期間：11月4日（金）まで（消印有効）

[i] 関合せ先 大東文化大学 東洋研究所
TEL：03-5399-7351 FAX：03-5399-8756 E-mail：tokenji@ic.daito.ac.jp

※注意事項
・受付は先着順とさせていただきます。
・駐車、駐輪はできません。お車、バイク、自転車でのご来場はご遠慮ください。

大東文化大学 東洋研究所 所報 No.65
2016年6月30日発行

編集・発行 大東文化大学東洋研究所
〒175-0083 東京都板橋区徳丸2-19-10
TEL (03) 5399-7351 FAX (03) 5399-8756
E-mail：tokenji@ic.daito.ac.jp
URL http://www.daito.ac.jp